



PL.5 トロピカル・ソホ・レフレックス

横浜市所蔵カメラ・写真コレクションにおける カテゴリー[カメラ]に属する収蔵品の概要

日比谷 安希子

はじめに

横浜市民ギャラリーあざみ野では、1993、94年に横浜市がアメリカの収集家、故サーマン・F・ネイラー氏(Thurman F. Naylor, 1919-2007)から購入したカメラ・写真コレクションを「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション」(旧ネイラーコレクション)として、2006年より収蔵管理している。本コレクションはカメラ、写真、写真関連アクセサリ、資料及び文献の総数約12,000件から成る。ネイラー氏がまとめたリストには不明な部分が多いため、当館では現在もネイラー氏から提供された目録と実物を照らし合わせながら、各収蔵品データを確認し、確認済のデータを横浜市民ギャラリーあざみ野のホームページに公開する作業を進めている。

今年度、大分類[カメラ]について、実物が確認できる約2,650件のデータ整理が終了する見通しとなり、全体像が見えてきた。そこで、この機会に改めてネイラーコレクションのカメラについて概観し、その収集の意図やコレクションの特徴について考察したい。

第一章では、コレクションの概要と分類について述べる。第二章では、大分類[カメラ]に含まれる資料の製造された年代と地域のデータを元に、コレクションの傾向を分析する。第三章では、ネイラー氏の目録を参照し、その分類に着目しながら本コレクションのカメラの分析を行うことによって、その特徴と意義について考察する。

1. 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの概要

1-1. 旧ネイラーコレクション

横浜市所蔵カメラ・写真コレクションは、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンのコレクター、サーマン・F・ネイラーが約40年にわたって世界各地から収集した、写真機材と写真作品を中心とするコレクションである。ネイラーは第二次世界大戦に陸軍航空軍パイロットとして従軍、大戦後は自動車用サーモスタットの実用製品の発明家としても知られるエンジニアで、マサチューセッツ州ウォルサムの自動車と飛行機の部品製造会社、スタンダード・トンプソン社のCEOを1960年から25年間務めた実業家でもある。1940年代に50セントほどの古いカメラの購入から収集を始め、オークション、ディーラー、店舗、骨董屋等での購入、寄贈など様々な収集方法でコレクションを拡大していった。ネイラーは、写真の技術革新を学ぶにつれて、写真の“Why”と、特に“How”に興味を持つようになったと述べている。¹その言葉の通り、ネイラーは、カメラ、写真をそれぞれ単体で考えず、写真技術の発展と写真文化の相互関係を理解できる内容を目指しており、それぞれの資料に関連品があるときは、セットで収集している。1981年からはコレクションを展示するために、

温湿度管理の行き届いたプライベート・ミュージアムをボストン市ウォルサムにある自宅に設置し、要望に応じて公開していた(fig.1)。

1-2. 横浜市によるネイラーコレクションの 取得の経緯

1989年に、ネイラーからコレクションを散逸することなく後世にわたって公共に生かしてくれるところとして、本市に譲渡の申し出があったことを受け、市は1992年にカメラや写真の専門家による現地調査を実施する。調査結果として「カメラと写真の歴史がたどれる厳選された良質の総合コレクション」との報告を受け、購入方針を固めている。² コレクションは1993、94年度にアメリカより日本に2回に分けて移送後、一時、横浜市歴史博物館、横浜市立図書館などに収蔵され、横浜市の管理のもと、検品作業、資料カードの作成が進められた。2005年度には横浜市民ギャラリーあざみ野の開館に伴い、同ギャラリーの収蔵庫に収蔵され、2006年度からは指定管理者の公益財団法人横浜市芸術



(fig.1) ネイラー・ミュージアム内部の様子
(平成5年横浜市による撮影)

文化振興財団が、整理・保存・活用業務を受託。以来、年1回のコレクション展でコレクションを公開するとともに、横浜市から引き継いで、収蔵・保存・管理を行っている。

1-3. コレクションの分類

博物館・美術館等のコレクションは一つの総体でありながら、そこに含まれる事物を体系づけるために分類される。本コレクションも横浜市が管理していた時期に、大分類を「カメラ」、「写真」、「レンズ」、「図書」、「汎用」とする分類が設定され、当館でもその大分類を引き継いでいる。内訳は下記の通りである。

カメラ：約2,700件

写真：約2,900件

写真関連アクセサリ：約2,000件(レンズ約300件を含む)

資料及び文献：約2,000件

大分類「カメラ」については、撮影に使用するものを中心とした光学機器を指す。ただし、プロジェクターやステレオビューワー等の画像鑑賞装置は大分類「汎用」に分類されているため含まない。

中分類については、当館に収蔵する前に作成された分類表では、「フォールディングカメラ」「ジュメユ&リジッド」等形状別、「レフレックスカメラ」等のファインダー構造別、「ロールフィルムカメラ」「カートリッジ

カメラ]等感材種別、[パノラマカメラ][ステレオカメラ]等撮影する写真の形式別など様々な基準による分け方が混在し、複数の項目に該当するカメラが発生すること、35mmフィルムカメラが主流の時代の分類のため[35mm一眼レフ][35mmカメラ(一眼レフを除く)]で独立した項目が設けられていることから採用していない。現在、当館では中分類として写真撮影機能を持つ[スチルカメラ]、動画撮影機能を持つ[シネカメラ]、カメラ・オブスクラ等写真発明以前の光学機器を含む[その他の光学機器]として機能別に分類している。中分類の内訳は以下の通りである。

[スチルカメラ] 2,526件(シネ・スチル兼用カメラ4件を含む)

[シネカメラ] 111件

[その他の光学機器] 9件

上記の中分類から更に、コレクションを系統だてて管理を行うために、小分類の設定が必要である。小分類の設定にはカメラの形状、ファインダー形式、感材種等様々な基準が考えられるが、感材種等既にデータをとっている項目に関しては、デジタルデータベースの導入によって検索が可能になっている。現在、データベースの検索項目を鑑みながら小分類をどう設定するか、日本カメラ博物館をはじめとする関係機関の協力を仰ぎ検討を重ねている。

2. 大分類[カメラ]のデータによる分析

各収蔵品は、資料カードを作成するとともに、デジタルデータベース上で管理している。大分類[カメラ]について、現在確認しているデータ項目は下記の通りである。

資料名/Title/製作者(和文)/Manufacturer/製作年/製作地/レンズ名/レンズ製作者名/サイズ(最小)/感光材料/感材規格/画面サイズ

今回、データ整理が終了したことで集計が可能になったため、それぞれの年代と地域の分布を示した表を作成した。

尚、本文のカメラ名の後の[]の番号は資料番号を指し、当館の収蔵品データベース(<https://jmapps.ne.jp/azamino/>)から資料名または番号検索で詳細データを確認できる。

(表1)

年代地域	-1838	1839-1859	1860-1879	1880-1899	1900-1919	1920-1939	1940-1959	1960-1979	1980-1999	不詳	合計
アメリカ	1	12(2)	10	135	186	299	271	118	42	34	1108
アルゼンチン							2	1			3
イギリス	2(1)	3	3	32	36	45	46	13	3	3	186
イタリア					6	1	21	2	1		31
インド								1			1
オーストリア		1(1)				1	5				7
オランダ					1	1	1				3
カナダ					1	1		1			3
シンガポール								1			1
スイス				2	2	3	5	6			18
スウェーデン							2				2
スペイン								1			1
ソビエト連邦						5	22	20	6		53
台湾								7	21	1	29
チェコスロバキア						1	6	4			11
中国						1	4	10	9	4	28
ドイツ				19	45(1)	257	192	66	5	6	590
日本					1	20	209	122	32	10	394
ハンガリー							2				2
ブラジル								1			1
フランス	2	6(2)	4	25	17	28	26	2		4	114
ベルギー						1					1
ポーランド							2	2	1	1	6
香港							2	14	6	10	32
マカオ								1			1
メキシコ							1				1
モロッコ							1				1
ラトビア						1					1
不詳			2	2			2	1	1	9	17
合計	5	22	19	215	294	665	822	395	127	82	2646

※年代については写真が発明される1839年とそれ以前を分けるために、最初だけ[-1838]とし、以降は20年ごとに区分した。

※製造期間が複数年に渡るカメラは、初号発売年が属する年代で集計した。

※ソビエト連邦、チェコスロバキアはネイラー収集当時の国名を記載した。

※()内は、記載された値のうち、後年製造されたレプリカの数を示す。

ネイラーコレクションは写真術発明以前の映像器具に始まり、写真術の黎明期から展開期を経て大衆化するまでの、19～20世紀の様々な特徴を持ったカメラが、ほぼ総合的に収集されている。年代としては、1940～59年の製品が最も多く、全体の31%を占める。コレクションはデジタルカメラが普及する1990年代後半より前のもので構成されているため、デジタルカメラは無い。撮像素子を使用するが、記録はビデオフロッピーディスクにアナログ方式で行う「電子スチルビデオカメラ」と呼ばれるカメラは、「RC-250 ザップショット」[2735] (1988年)を収蔵している。

地域別の分布で見えていくと、1839年に発表され世界で最初の写真術となったダゲレオタイプ(銀板写真)が

発明されたフランスと、同時期に写真の発明が行われていたイギリスのカメラや光学機器は、写真史初期のものから20世紀の製品まで広く収蔵されている。

ネイラーの居住国であったアメリカの製品が最も多く、42%に上る。同国では1839年のうちに写真が伝わり、早くから写真産業が勃興した。ネイラーは初期のダゲレオタイプカメラから収集し、最初期のポートレート用カメラ「ウォルコット・ダゲレオタイプカメラ」についてはレプリカ[2400]を制作するなど、自国のカメラ史への意識が感じられる。製作者としては、イーストマン・コダック社(イーストマン乾板&フィルム社、イーストマン社時代の製品を含む)の製品が最も多く、496件含まれ、次いでポラロイド社が72件となっている。

ドイツについては、「ライカ」、「ローライフレックス」、「コンタックス」、「イコンタ」等、革新的な近代カメラが多く登場し、ドイツの写真工業が隆盛した1920~39年製の製品が多く集められている。

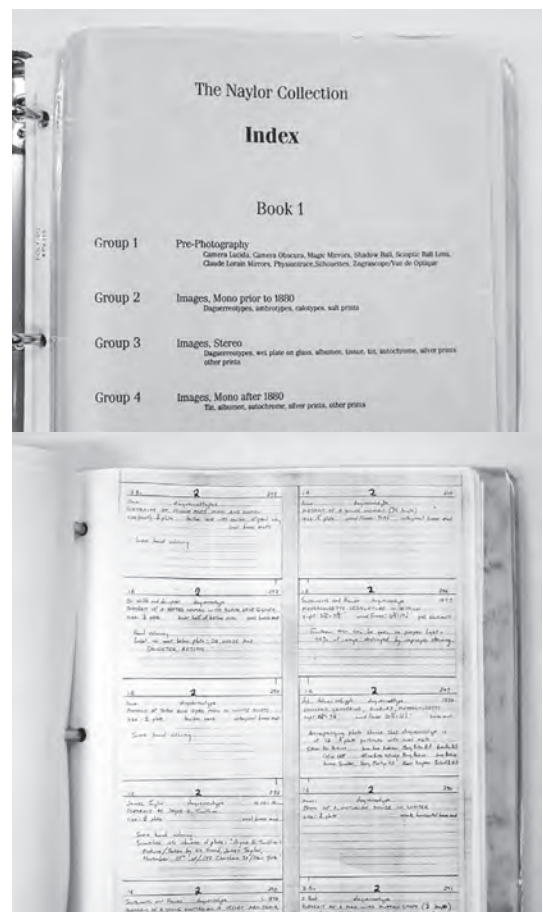
日本製カメラはアメリカ、ドイツに次いで多く、1940~59年、1960~79年製の製品が中心となっている。この時期は、日本が第二次世界大戦後の復興期を経て、カメラの製造・輸出大国になっていく時期にあたる。³

3. ネイラーの分類によるカメラの分析

3-1. ネイラー収蔵時の分類

ネイラー所蔵の時、コレクションはネイラー自身によって、(表2)のとおり22種類に分類され、全3巻の手書きの目録が作成されている(fig.2)。カメラのみで一つのグループが構成されているものもあれば、カメラ、写真、文献等様々な資料が含まれているグループも存在している。

特徴としては、ゼラチン乾板が普及し、ロールフィルムが発明される1880年代以前と以後で写真、カメラ、文献を分類するなど、収集活動を通じて写真技術の発展と写真表現との関係を探っていたコレクターの収集方針がわかる分類がなされている。また、Group 3 “Images, Stereo(ステレオ写真)”、Group 14 “Cine(映画)”等、技術史とは別にメディアの形式や種類によって収められているグループもある。また、Group 10 “Kodak(コダック)”は一企業であるコダック社の製品、広告、関連資料で一つのグループが設けられているほか、Group 20に“Memorabilia(注目すべき事柄)”として、特定の人物の関連資料を一つのグループに収めるなど、個人コレクターならではの分類も見られる。全体を見ると分類の基準として、メディア、時代、技法、メーカー等、様々な分け方が混在している。



(fig.2) ネイラー目録のINDEX及び内容の複写

(表2) The Naylor Collection Index

Group	Contents
<u>Group 1</u>	Pre-Photography Camera Lucida, Camera Obscura, Magic Mirrors, Shadow Ball, Scioptic Ball Lens, Claude Lorain Mirrors, Physiontrace (原文ママ), Silhouettes, Zogrscope/Vue de Optique
Group 2	Imaged, Mono prior to 1880 Daguerreotypes, ambrotypes, calotypes, salt prints
Group 3	Images, Stereo Daguerreotypes, wet plate on glass, albumen, tissue, tin, autochrome, silver prints, other prints
Group 4	Images, Mono after 1880 Tin, albumen, autochrome, silver prints, other prints
<u>Group 5</u>	Camera, Lenses and Equipment-1880 and earlier Daguerrean, wet plate, studio equipment, studio furniture
<u>Group 6</u>	3D Cameras, Lenses, Equipment, Viewers Stereo, lenticular, other 3D, vectographs, stereo viewers, mono viewers
<u>Group 7</u>	Camera after 1880 Dry plate, field, studio, roll film (except as otherwise indexed)
<u>Group 8</u>	Cameras Detective, spy, subminiature
<u>Group 9</u>	Cameras 35mm, excluding pre-Leica and copies & Kodak
<u>Group 10</u>	Kodak Camera, accessories, advertising, related Kodak material
<u>Group 11</u>	Cameras and memorabilia Polaroid, other instant cameras, Polaroid prototypes, related instant photography items
<u>Group 12</u>	Cameras Leica, Pre-Leica 35, Leica copies, accessories, Leica related advertising and memorabilia
Group 13	Photo Miscellaneous Shutters, lenses, rangefinders, timers, Waterhouse stops, darkroom equipment, enlargers, furniture, tripods, stands after 1880
<u>Group 14</u>	Cine Cameras, equipment, lenses, magic lanterns, lantern slides, pre-Cinema
<u>Group 15</u>	Cameras Street, color separation, underwater, police, electronic, robotic, medical, special purposes, toy, novelty cameras and devices, aerial/aircraft, military
Group 16	Books Prior to 1880
Group 17	Books 1881 and later
Group 18	Cases, jewelry, meters, Stanhopes, frames, etc. Union cases, other cases, photo jewelry, ceramics, photo toys, Stanhopes, souvenirs, albums, exposure meters and calculators, statuary, frames, coins, stamps, lithopane, device with photos
Group 19	Photographic Advertising Wood and metal signs, cartoons, engravings, Japanese Ukiyo-E, woodblock prints
<u>Group 20</u>	Memorabilia Margaret Bourke-White; Godowsky-Mannes; Wheatstone; Edgerton; Ansel Adams; Victor Keppler; Sam Shere (Hindenburg)
Group 21	Other
Group 22	Acquisitions after April, 1991

3-2. 各分類の特徴とそこに含まれるカメラ

(表2)のグループ名に下線が付いたものが、カメラが含まれるグループである。本稿ではカメラが含まれるグループについて解説し、特徴的な資料を見て行く。

(1) Group 1 Pre-Photography

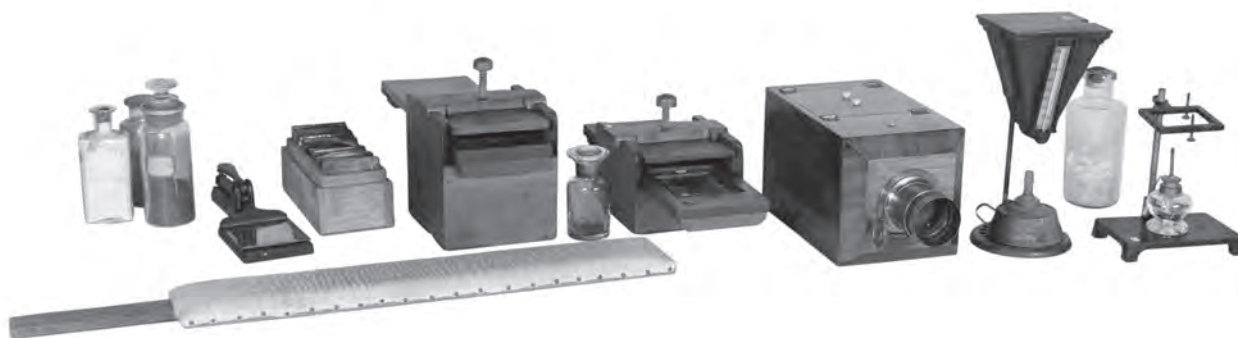
Camera Lucida, Camera Obscura, Magic Mirrors, Shadow Ball, Scioptic Ball Lens, Claude Lorain Mirrors, Physiontrace(原文ママ), Silhouettes, Zogrscope/Vue de Optique

写真前史の光学機器と、シルエット等の影をなぞることによる肖像表現が含まれる。光学機器は、カメラの前身と言われる「携帯用カメラ・オブスクラ」、「テント型カメラ・オブスクラ」、「カメラ・ルシーダ」がこのグループに入る。

(2) Group 5 Camera, Lenses and Equipment-1880 and earlier

Daguerrean, wet plate, studio equipment, studio furniture

主に最初に普及した写真技法、ダゲレオタイプ用のカメラと1850年代から用いられたコロジオン方式湿板用のカメラが属する。初期の写真は写真館を中心に発展し、技法上の制約から薬品処理から撮影、印画制作までの一連の工程が撮影現場で行われていたため、スタジオ用品や薬品処理道具が同じ項目に入れられている。個別の収蔵品としても、「アメリカン・ダゲレオタイプカメラ」[2399] (fig.3) は、薬品処理用具、三脚、木製首押さえ計27点とセットで収蔵されている。名刺判(60×90mm)やジュムサイズ(25×30mm)の写真を一度の露光で複数枚撮影する多眼カメラも9台を所蔵している。



(fig.3) アメリカン・ダゲレオタイプカメラと薬品処理用具

(3) Group 6 3D Cameras, Lenses, Equipment, Viewers

Stereo, lenticular, other 3D, vectographs, stereo viewers, mono viewers

写真史初期から20世紀後半までの立体視に関連したカメラやビューワなどの道具が属する。1880年以前のステレオカメラはGroup 5に含まれるため、本グループには含まない。

1832年に発表された立体視の理論は1839年に写真が発表されるとすぐにステレオ写真(立体写真)として応用され、新たな視覚体験をもたらすメディアとして写真の普及とともに広まっていった。このグループにはレフレックスカメラ「ソホ・ステレオ・レフレックス」[1884](1909年)、35mmフィルム用「ステレオ・リアリ

ストモデル1041」[88] (1947年) (fig.4)、レンチキュラー写真用「ニムスロ3D」[539] (1980年) 等各時代を代表する立体写真撮影用カメラが含まれ、ステレオ写真の主な担い手がプロフェッショナルからアマチュアへと移っていった歴史をたどることができる。ステレオ写真についても、Group 3に単独で項目が設けられている通り多数の収蔵があり、ネイラーのこの分野への関心の高さがうかがえる。



(fig.4) ステレオ・リアリスト
モデル1041

(4) Group 7 Camera after 1880

Dry plate, field, studio, roll film (except as otherwise indexed)

1880年以降に製造されたカメラのうち、他グループに含まれないものが属する。1880年代以降は、1870年代に工業製品化したゼラチン乾板と1880年代に実用化したロールフィルムの普及によって、カメラに感材を装填したまま、複数枚の写真を手持ちで撮影できるようになった。以来、感材用マガジンやシャッターを搭載するなどカメラの機能は複雑化し、急激に新しいカテゴリーのカメラが増えていった。このグループに含まれるカメラもクラップカメラ、ジュメユ・リジッド型カメラ、フォールディングカメラ、ボックス・カメラ、初期の一眼レフ、二眼レフ、20世紀後半に登場したレンズ付きフィルムまで多種多様なカメラがあり、19世紀末から20世紀のカメラのバリエーションの広がり示している。

(5) Group 8 Cameras

Detective, spy, subminiature

ディテクティブカメラとは、1880年代以降につくられた手持ちで目立たないように撮影できるカメラを指す。⁴Detective(探偵)と付いているが、必ずしも捜査のために設計されたものではなく、被写体に気づかれないうちに撮影する「キャンディッド・フォト」と呼ばれる写真を撮るために使用された。狭義には箱型のマガジンカメラ (fig.5) を指すこともあるが、時計や双眼鏡等、他の日用品の形をした製品のことを含むこともあるため、カメラの分類では「偽装カメラ」や「スパイカメラ」と呼ばれるカメラとセットに扱われることが多く、ネイラーも同分類に入れている。

超小型カメラは、20世紀の製品については画面サイズが24×36mm未満の製品が分類される。コレクションには日本で戦後に進駐軍の土産物として大量に製造された「ヒットタイプ・カメラ」あるいは「豆カメラ」と呼ばれる17.5mmロールフィルムを使用する超小型カメラも多数含まれる。



(fig.5) T&Wディテクティブカメラ
[1715]

(6) Group 9 Cameras

35mm, excluding pre-Leica and copies & Kodak

独立した項目が設けられているGroup 10 “Kodak(コダック)”, Group 12 “Camera Leica, Pre-Leica 35,

Leica copies(ライカ、プレ・ライカ、ライカ・コピー)”を除いた35mmロールフィルム使用カメラを集めたグループである。透視ファインダーカメラ、一眼レフカメラが多く、画面サイズは24×36mmの他、通称ハーフサイズと呼ばれる18×24mmの製品も含まれる。一眼レフは初期の「スポーツ」[1424](1935年)や、世界初のペンタプリズム搭載一眼レフ「コンタックスS」[1928](1949年)、電気露出計内蔵ファインダーを搭載した「ニコンFフォトミック」[815](1962年)、ハーフサイズの「オリンパスPEN」[2517](1963年)等が含まれ、一眼レフが20世紀後半に発展し、小型精密カメラの中心になっていく歴史を追うことができる。透視ファインダーカメラも、世界で初めてオートフォーカス機構を搭載した市販カメラ「コニカ C35 AF」[1092](1977年)等、カメラ史上重要なカメラを含む。35mm距離計連動カメラに関しては、その多くがGroup 12にライカ・コピーとして分類されているが、「コンタックス」シリーズの距離計連動カメラと「コンタックス」に影響を受けたカメラはこの分類に入れられている。

(7) Group 10 Kodak

Camera, accessories, advertising, related Kodak material

1881年にアメリカでイーストマン写真乾板社として創業したコダック社は、“You press the button, we do the rest.(あなたはボタンを押すだけ、あとは私たちがやります)”というキャッチコピーとともに100枚撮りフィルム入りカメラ「ザ・コダック」[1598](1888年)(fig.6)を売り出した。使いやすさを追求したカメラの開発によって写真の大衆化に大きく寄与したメーカーである。コダック社は感材とカメラを両輪で開発し、新たなカメラを販売したときの専用のロールフィルムには規格番号を割り当てている。よく知られたところでは映画用35mmフィルムをパトローネに入れて規格化した135フィルムと135フィルム用カメラ「レチナ I(タイプ 117)」[91](1934年)、126カートリッジフィルムと126フィルム用カメラ「コダック・インスタマチック」シリーズ(1963年)をそれぞれ同時に発売している。これらのフィルム規格は他のメーカーにも採用され、コダック社が生み出したカメラとフィルムのシステムは、19世紀末～20世紀のカメラ産業に大きな影響を与えた。このグループには、様々なフィルム規格やカラーバリエーションのカメラ、感光材料、暗室用品、広告等が含まれ、コダック社の企業としての戦略が見える内容になっている。



(fig.6) ザ・コダック

(8) Group 11 Cameras and memorabilia

Polaroid, other instant cameras, Polaroid prototypes, related instant photography items

カメラ内部で撮影から現像、画像形成までを行うイン・カメラ・プロセスのカメラと関連資料が属する。古いものは「ボールズ&スミス現像処理機構内蔵カメラ」[1320](1857年)がある。これは本体下部に薬品処理用の3個のタンクが付いた湿板写真用カメラで、上部のレバーでガラス原板を上下させることによって、薬品処理を行いながら撮影を行う。

ポラロイド社の製品も、最初に発売された「ポラロイド・ランドカメラ モデル95」[1367](1948年)から、「スパイス・カム」[2768](1997年)まで72機を収蔵している。この中には、「ポラロイド SX-70 ランドカメラ」の

プロトタイプ[2232] (fig.7)、[2233]、[2234]、「ポラロイドSX-70ソナー・オートフォーカス」のデモンストレーション用カメラ[1390]、ISO600の高感度フィルムと、比例式補助光機構を持つエレクトロニック・フラッシュを組み合わせたサン・システムに対応した機種「ポラロイド660」(1982年発売)のプロトタイプ2機[2542]、[1989]など、ポラロイド社の研究所で製作・試用されたカメラも含まれる。



(fig.7) ポラロイド SX-70 ランドカメラ プロトタイプ

(9) Group 12 Cameras

Leica, Pre-Leica 35, Leica copies, accessories, Leica related advertising and memorabilia

1925年にドイツのエルンスト・ライツ社から発売された「ライカ」(fig.8)は、その精密さと機動性で、それまで専ら映画用フィルムとして認識されていた35mmフィルムを写真のプロフェッショナルの使用に耐えうる規格へと押し上げ、小型精密カメラという分野を確立した。「ライカ」が採用した24×36mmの画面サイズは、現在のデジタルカメラの撮像素子の規格「フルサイズ」にも踏襲されている。カメラ史の中で、「ライカ」とその影響を受けたカメラは、35mm小型精密カメラが発展する過程を表す分野として研究対象になっている。プレ・ライカは、「ライカ」以前に発売された35mmフィルムを使用するカメラ群を指す。ライカ・コピーは「ライカ」に範を取って世界各地で製作されたカメラを指す。この分類のカメラを通じて、20世紀に35mmフィルムカメラが主流になっていく過程をたどることができる。



(fig.8) ライカ I (A) [375]

(10) Group 14 Cine

Cameras, equipment, lenses, magic lanterns, lantern slides, pre-Cinema

映画はロールフィルムの完成で実用化できたこともあり、写真に近接した分野として、映画前史関連資料、映写機、シネカメラも収集されている。シネカメラは小型の9.5mm、8mm、16mm用の製品を中心に収蔵されており、ビデオカメラは含まれていない。初期のものとしては、35mm用「キナモ」[2612] (1921年)、世界的に流行した9.5mm用「パテ・ベビー」[2620] (1922年)、最初の16mmシネカメラ「シネコダック モデルA」[2116] (1923年)を収蔵し、8mmフィルム用もシングル8、スーパー8、ストレート8、ダブル8の各規格用のカメラを揃えている。

(11) Group 15 Cameras

Street, color separation, underwater, police, electronic, robotic, medical, special purposes, toy, novelty cameras and devices, aerial/aircraft, military

特殊用途のために製造されたカメラと、トイカメラが属する。特殊用途のカメラは、特定の専門業務に使用するものや特殊な環境での使用に対応できる仕様のものであり、市販されていないものも含まれる。スト

リートカメラは街角で営業する写真師用カメラで、その場でプリントできるインスタントカメラの機構を持つ。三色分解カメラは、印刷、カラープリントを作成するために三色分解ネガを撮影するカメラで、カラーフィルムが発明される以前に使用された。水中カメラは浸水を防ぎ、一定の水圧に耐える構造を持つ。警察用カメラはマグショットカメラや指紋カメラが含まれる。医療用カメラは、歯科用カメラや「ガストロカメラ GTF-A」[13588] (1965年)を含む。軍用カメラは、記録や偵察に使用する小型カメラ、プレスカメラ、航空カメラ等が含まれる。航空カメラは望遠で高精細画像を得るために大型のカメラが多く、最大のものはアメリカ空軍偵察機「U-2」に搭載された画面サイズが9×18inch、本体が1009×560×380mmに及ぶ高高度諜報写真撮影用カメラ「フェアチャイルド K-38」[2169] (fig.9)である。

トイカメラは、古くは1876年に子ども向けに発売された「ハーゾグ・カメラ」[1665]から、20世紀後半に製造された126、110フィルムカートリッジを使用するプラスチック製のカメラまで、光学メーカーによる製品だけでなく、日用品や玩具を製造するメーカーの製品を含む。特殊用途カメラとトイカメラという性質の異なるカメラが同じグループに入れている理由は不明であるが、写真の活用分野と、カメラの使用者層の広がりを示している。



(fig.9) フェアチャイルド K-38(右)

(12) Group 20 Memorabilia

Margaret Bourke-White; Godowsky-Mannes; Wheatstone; Edgerton; Ansel Adams; Victor Keppler; Sam Shere (Hindenburg)

特定の写真家、写真技術者等に紐付いた資料である。

写真家関連のカメラでは、1935年に『ライフ』誌の創刊号の表紙を飾った写真家、マーガレット・バーク＝ホワイト (Margaret Burke-White, 1904-1971) が使用した木製一眼レフカメラ、「トロピカル・ソホ・レフレックス」[1759] (PL.5) を収蔵している。

サム・シェア (Sam Shere, 1905-1982) は『ライフ』誌上を中心に活躍した報道写真家である。関連品は写真、カメラ、賞状、新聞記事で構成され、シェアの作品で最も知られる1937年の飛行船ヒンデンブルク号の爆発の様子を撮影した際に使用していた「スピード・グラフィック」[1262] と「ライカⅢ」[547] がある。

エレクトロニック・フラッシュの開発者で、「ミルク・ドロップ・コロネット」などのハイスピード写真でも知られるハロルド・E・エジャートン (Harold E. Edgerton, 1903-1990) は、ネイラーが居住するボストン近隣のマサチューセッツ工科大学で教授を務めていたこともあり、長年にわたる交流の中でカメラ、写真、装置等が収集されている。カメラとしては、初期のハイスピード写真の撮影に使用したフォールディングカメラ「ベルクハイル」[2090] (1914年) を改造したものがある。また、エジャートンは1950～80年代に海洋探検家ジャック・クストー (Jacques Cousteau, 1910-1997) のために水中写真・動画撮影の技術開発に携わっており、その際に使用したエジャートン、ジェルムズハウゼン&グリアー社 (以下EG&G社) の「シャロウ・タイプ CA-8」[2099] 等の水中カメラがある。「ラパトロニック」[2087、11320、11321] (fig.10) はEG&G社が原子力委

員会の依頼により開発した核爆弾撮影用の撮影装置である。核爆発の撮影には強い光量と核反応の速さに対応する超高速のシャッター速度が求められた。「ラパトロニック」は通電することによって開閉する光磁気式シャッターで、2マイクロ秒のシャッター速度を実現した。

1935年にイーストマン・コダック社が発売し、世界で最初に商業的に成功したカラーフィルム「コダクローム」の開発者、レオポルド・ゴドウスキー(Leopold



(fig.10) ラパトロニック

Godowsky, 1900-1983)とレオポルド・マンネス(Leopold Mannes, 1899-1964)の関連資料は、二人の家族から寄贈された実験道具、関連文献、カメラ、写真、音楽家でもあった二人の楽譜や楽器等幅広い資料で構成されている。カメラはゴドウスキーが使用していたもので、「コダック・ステレオカメラ」[83]、「ミノルタ・オートパック 500」[167]等、市販されていた製品である。シネカメラは「シネコダック モデルK」[2246]があり、1935年に撮影された16mmフィルムも付随している。

主にアメリカを中心に活動した人物の資料が多く、技術者関連では、その研究活動に関わる貴重な資料も含まれている。これらの人物は写真史の中にも大きな足跡をのこす人々であり、特に本コレクションの重要性を示す資料群といえる。

おわりに

これまで見てきた通り、ネイラーコレクションに含まれるカメラは、ヨーロッパで誕生した写真技術が19~20世紀を通じてどのように発展したかを示すものになっている。また、トイカメラやコダック社の製品をはじめとする大衆機も多く含んでおり、技術の発展という視点にとどまらず、どのように写真文化が広がっていったかを探求する視点も合わせもっている。一方で、各時代の最先端技術で開発された特殊用途カメラも収蔵し、光学技術者たちがいかに人間の視覚を切り拓いて来たかを示す資料も含まれている。

写真研究の分野では近年、芸術的写真と非芸術写真に分けられて主に芸術的写真を中心に論じられて来た写真論が見直され、市井で撮られた肖像写真や科学写真、商業写真をはじめとするヴァナキュラー写真にも研究の対象が広がっている。写真は光学技術によってイメージが形成され、撮影目的によって用いられる機材や感光材料の選択が大きく異なるため、それらについて探求することは、撮影時の状況や、撮影の社会的背景を知るための手がかりとなる。本コレクションのカメラはその多様性によって、市井の写真から特殊用途の写真まで、様々な目的で撮影された写真がどのような状況や背景で制作されたものかを探れるものとして、更なる研究が期待される。

今後の課題としては、大分類[カメラ]の小分類を策定するとともに、更に詳細なデータを採用して公開し、より体系的なデータベースの検索機能を強化したい。また、先に述べた通り、コレクションのカメラは、写真、広告、文献、アクセサリ等の収蔵品を関連付けて収蔵されているものもある。2023年9月~2024年3月

までの期間限定として「〈WEB展覧会〉横浜市所蔵カメラ・写真コレクション 来日30周年 みどころキューブ」と題して、Web上の鑑賞コンテンツでコレクションの一部を閲覧できるようにしてみたが、今後、他の大分類の資料の調査を進めて他分類の情報を公開し、収蔵品間の相互関係を示しながら、写真の発展が複合的な視点から捉えられるようにデータを整備していきたい。また、本コレクションはデジタルカメラを含まない。デジタルによる写真が主流になった現代において、コレクションが内包する歴史を現在の写真文化につなげていくための方策について検討が必要である。

(横浜市民ギャラリーあざみ野 学芸員)

【謝辞】

本稿の執筆にあたり、日本カメラ博物館学芸員の井口芳夫氏に貴重なご助言を賜りました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

- 1 Thurman F. Naylor, *Working Inventory of the Naylor Collection*, The Naylor Collection, 1988, (i)sdv X
- 2 詳細な経緯は以下を参照。日比谷安希子「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション(旧ネイラーコレクション)個人コレクションの分類と写真史をめぐる考察」『横浜美術館研究紀要 第14号』/2013年/pp.41-42
- 3 日本のカメラ輸出台数は、1967年に西ドイツを抜いて世界1位となった。
- 4 デイテクティヴカメラの定義については以下を参照。Introduced by Peter C Bunnell and Robert Sobieszek, *Encyclopedia of Photography*, 1974, Arno Press, pp.168-169
Todd Gustavson, *500 Cameras*, Sterling Publishing, 2011, p.73

【主要参考文献】

- 日本写真機光学機器検査協会、歴史的カメラ審査委員会編『日本カメラの歴史 歴史編・資料編』毎日新聞社/1975年
- 酒井修一『ライカとその時代』朝日新聞社/1997年
- クエンティン・バジャック『写真の歴史』(伊藤俊治監修)創元社/2003年
- Todd Gustavson, *Camera: A History of Photography from Daguerreotype to Digital*, Sterling Publishing, 2009

An Overview of the Items in the Camera Section of the Collection of Camera and Photography of the Yokohama City

Hibiya Akiko

(Curator, Yokohama Civic Art Gallery Azamino)

In 2006, the Yokohama Civic Art Gallery Azamino began to house and administer the Collection of Camera and Photography of the Yokohama City, which was acquired from the late American photography collector Thurman F. Naylor (1919-2007) in 1993 and 1994. The collection is made up of five sections: cameras, photographs, accessories, lens, and books. While checking the inventory provided by Naylor against the actual items, we are currently involved in confirming the information regarding each piece and publishing it on the museum website.

As the process of cataloging this information for the approximately 2,650 items in the camera section whose whereabouts are currently known, it is now possible to grasp the entire picture. The cameras manifest a nearly comprehensive collection, which includes everything from visual equipment that predates the invention of photographic technology to cameras equipped with a variety of 19th- and 20th-century features that emerged with the popularization of the devices following the dawn and subsequent development of the technology. At the same time, the fact that Naylor's inventory also includes a subsection devoted to American manufacturers such as Eastman Kodak and Polaroid, and another one called "Memorabilia," made up of documents dealing with particular people, including Margaret Bourke-White (1904-1971) and Harold E. Edgerton (1903-1990), indicates that the items were amassed by a private collector.

In this paper, I analyze the cameras contained in the collection while referencing Naylor's inventory, and provide summaries of the items along with descriptions of their features.